



□悪い鬼を追い出そう！□

大人になっても、何歳になっても、直したい癖や習慣があるものです。成長過程にある子どもたちには、家庭でも学校でもそういった所が多くあるものです。今月の全校朝会（2/4）では、節分に関連させ、以下のような話をしました。

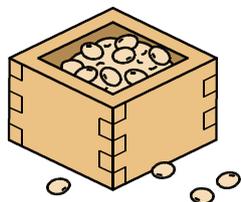
今日は何の日か知っていますか？ →『立春』（中学年から）
では、昨日は何の日でしたか？ →『節分』（大勢の子から）
家で、何かしましたか？ →『豆まき』『恵方巻』（ " ）



今日は「節分や豆まき」、そして「節分の次の日（今日）」のことについてお話しします。

節分は1年に何回あるか知っていますか。実は4回もあるんです。どうしてかという、今日の日と関係します。今日は『立春』です。暦の上では、今日から春になるという意味です。つまり、昨日の節分は“冬と春の季節を分ける”という意味の日です。そうすると季節は『春・夏・秋・冬』と4つあるので、節分も4回なのです。

『立春』の他に『立夏』、『立秋』、『立冬』があり、それぞれの前の日が『節分』というわけです。今では、2月の節分が1年のはじめの節分なので、節分と言えば2月になっているのです。



では、なぜ『豆まき』をするのでしょうか。

それは『豆』は『魔滅』とも書け、鬼にぶつけることで、邪鬼を追い払い、一年の無病息災を願う意味があるのです。豆を何個食べたらいいかもあるようです。自分の年と同じか、一つだけ多く食べると体が丈夫になり、風邪を引かないと言われていました。

このお話は、『みつけ塾』に分かりやすく載っているので、見てください。

豆まきをしなくても、鬼が逃げていくと言われるお家があります。皆さんの中にそんなお家がありますか。それは、◇年生の〇〇さん、□□先生、△△先生のお家がそうなんです。〇〇さんのお母さん、□□先生、△△先生は、実は鬼よりも強くて、鬼よりも怖いからです。

本当は、昔、渡辺綱という人が鬼をやっつけたからだそうで、鬼が怖がって『渡辺』さんのお家には来ないんだそうです。いいですね。

最後に、自分の中に追い出したい悪い鬼はいませんか？

- ・おこりんぼう鬼 ・泣きむし鬼 ・中途半端鬼 ・めんどうくさがり鬼
- ・おしゃべり鬼 ・もったいない鬼.....

自分の中にいる悪い鬼を追い出し、2月、3月と健康に気を付け、しっかりと学年のまとめをしていきましょう。

私たち大人であれば、『食べ過ぎ鬼』『飲みすぎ鬼』『運動しない鬼』『休日はぐーたら鬼』といった所でしょうか。子どもたちに負けないよう、今からでも改善できそうなことには挑戦したいものです。（校長 伊藤芳文）

避難訓練(1/15)

見附警察署および名木野駐在所よりお越しいただき、不審者対応の避難訓練を行いました。

様々な声かけパターンで、全校児童が実際に逃げることを体験しました。



初めてのお茶うがい(1/19)

効果が大きいと言われる『緑茶』によるうがいを、ゴーゴータイム終了後に全校で行っています。

インフルエンザにかかる子が一人もなく、元気いっぱいの子どもたちです。



大縄大会(1/28)

ゴーゴータイムの時間やお昼休みに、なかよしフレンズ班(縦割り班)で進んで練習を続けてきた大縄。その成果を競う大縄大会が行われました。

当初は3分間で100回程度だったのが、本番では3班とも200回を軽く超えるまでに記録を伸ばしました。

練習を積み重ねることで成果が表れること、そして何よりもお互いに励まし合うことで、学年を越えた仲間との絆をより深めた子どもたちでした。



あんなに速く回す縄に一年生が全員とんでいる姿にびっくりしました。上の学年の子が背中を押してくれ、タイミングをとりながらみんなで力を合わせてがんばる姿に素敵だなと思いました。そして、他のチームを応援する姿を見て、田井小らしさを感じました。(中略)一つのことをみんなでやり遂げようとする力の強さを感じました。
— 1年生のお母さんからの感想 —

スキー授業(1/19~) & スキー教室(2/3)

○冬の自然に親しみながら、スキーの特性に触れて楽しむ。

○基礎的な技能やマナーを身に付け、安全に楽しくスキーができるようになる。

このようなねらいから、学校では10時間程度、スキー場へは2回出向き、行います。

2/3(火)には、1・2年生は越後丘陵公園でそり遊びを、3~6年生は栃尾のスキー場で、スキー教室を行いました。スキー場では、保護者・地域ボランティアの方々からもご支援いただき、グループごとに活動しました。短時間ですが、子どもたちの上達ぶりには感心しました。

雪国ならではの体験を積み、安全に気を付け、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育てていきたいと思えます。



丘陵公園でのそり遊び



グラウンドでの授業風景